

令和7年度 授業改善推進プラン



大田区立徳持小学校

令和7年度 授業改善推進プラン 目次

学力向上を図るために	3
1 国 語	4
2 社 会	7
3 算 数	9
4 理 科	12
5 外 国 語	14
6 生 活	15
7 音 楽	16
8 図画工作	17
9 家 庭	18
10 体 育	19

学校・地域の実態や願いなど

児童の実態
本校の教職員の願い
家庭・地域の実態
保護者の願い

学校の教育目標

○考える子 ○やさしい子 ○つよい子

教育関係法規など

日本国憲法
教育基本法
学校教育法
学習指導要領
教育委員会の教育目標
東京都教育ビジョン
おおた教育ビジョン

家庭、地域社会、他の学校や関連機関との連携

○家庭と協力して基本的生活習慣を身に付けさせる。
○地域の人々の協力を生かした教育活動を積極的に行う。

総合的な学習の時間の指導の重点

○自ら課題を見つけ、自ら学び考え、判断し、解決する能力、態度を育成する。
○学び方やものの考え方を身に付け、探究活動等に主体的に取り組み、自己の生き方を考えることができる態度を養う。
○自然体験、ボランティア体験などを通して、自らを生かし、望ましい人間関係を育てる。
○情報や環境など、新しい社会的課題に気付き、積極的に関わろうとする意欲を育てる。

学校経営方針（学力向上に関わる重点）

授業力向上の目指し、学び合い、高め合う授業の実践により、子供たちの思考力・判断力・表現力を育成する。

○主体的に学ぶ意欲の向上。
○基礎的、基本的な知識・技能の定着。
○課題解決に必要な思考力・判断力・表現力の育成。
・算数習熟度別指導の充実
・補習教室の実施
・校内研究の充実
・地域の教育力の導入

校内研究

自分の考えや気持ちを豊かに表現できる児童の育成

～共感的に聞き合うことを大切に～

【目指す児童像】

低学年：くわしく自分の考えや気持ちを表現できる児童
中学年：相手意識をもって自分の考えや気持ちを表現できる児童
高学年：相手の考えを理解し、自分の考えや気持ちにいかして表現できる児童

人間関係や環境の整備、生活指導、生活全般における指導の重点

○「徳持スタンダード」の徹底により、学校のきまりを理解し、基本的な生活習慣が定着できるようにする。
○相手の立場を思いやる心を育て、望ましい人間関係を育てる。
○安全な環境を整備するとともに正しい言語環境、信頼し合う人間関係を育てる。
○学校カウンセラーと連携・協力し教育相談の充実を図る。

特別活動の指導の重点

○望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。
○集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導の重点

○郷土の特色（池上地区の特色）を活用した学習を通して、身近な地域への関心を高める。
○地域の人との交流を通して、人間尊重の精神や思いやりの心を育てる。

各教科の指導の重点

国語	各教科学習の基礎となる言語力の育成を図る。「話す・聞く姿勢」を徹底させ、話し合う力を育てる。また、読書活動を推進し、読む力を伸ばす。
社会	資料から必要な情報を集めて読み取り、社会的事象の意味等を解釈し、自分の考えをもつことで、他視点を公正に判断する能力や態度を養い、社会形成に参画する資質を育成する。
算数	数や図形の感覚を育てるために算数的活動を多く取り入れる。基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るために、発達や学年の段階に応じたステップ学習による指導を充実させる。
理科	自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力をつける。自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。
生活	言語活動などを通して、人とのかかわる楽しさが分かり、進んで交流できるようにする。活動や体験したことを言葉や絵で表す表現活動を一層重視する。
音楽	リズム、旋律、ハーモニーを大切に学習を展開し、基本的な楽器の奏法や発声ができるようにする。
図工	絵の具、道具や工具等の基本的な扱い方を基礎力として身に付け、自分の思いを自由に表現できるようにする。
家庭	家庭生活の基礎となる生活技能を、体験活動を通して学ぶ。自らの課題達成のために進んで調べ、手順を考えたり、よりよく工夫したりできるようにする。
体育	体づくり運動などで基本的な動きや柔軟性を身に付ける。また、運動量を確保するとともに自らめあてをもち、励まし、学び合いながら学習できるようにする。
外国語	コミュニケーションの目的や場面を意識して活動を行う。英語の音声や語彙、表現などの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図る。

指導内容・指導方法	教育課程	研究・研修の工夫	評価の工夫	地域や家庭との連携
○学び合い、高め合う場面を設定することで、主体的に学ぶ意欲を高める。 ○教材研究の時間を確保し、指導を工夫して、よりわかる授業を行う。 ○習熟度別指導やドリルパーク、東京ベーシックドリルの活用、など、個に応じた指導の充実を図る。 ○体験学習・問題解決学習を取り入れ、自ら課題を解決する力を育成する。 ○読書指導や言語活動を充実させ、各教科の基礎となる言語力を育成する。	○振替なし1日、あり2日の土曜授業を年間3日実施し、学力向上のための時数を確保する。 ○補習教室、基礎・基本の力を定着させる。 ○読書月間、保護者による読み聞かせなどにより、読書活動を推進する。 ○全学年で外国語・外国語活動を実施し、国際理解教育を推進するとともに、言語に対する関心を高める。	○校内研究を授業力向上の場とする。全学年・専科教員で分科会を組織して、研究授業を行い、主体的・対話的で深い学びを目指した授業づくりを行う。 また、学び合い、高め合いを重視した授業を行うことができるようにする。 ○区の教育研究会の各部会で授業研究を深めたり、外部の研修に参加したりして、指導力を高める。	○学習のねらいを明確にし、1時間ごとの評価を生かして学力の定着に努める。 ○学校公開での保護者アンケート、外部評価などにより、授業改善を行う。 ○学習効果測定の個人票を基に、学習の定着状況を振り返らせ、目標に向けて学習計画を見直すことができるように支援する。	○「徳持スタンダード」を配布し、家庭と協力して生活の基礎・基本の定着のために取り組む。 ○国際理解、健康、キャリア、環境教育、地域学習など、地域の協力による体験や交流により学びを広げる。 ○徳持応援団（学校運営協議会）により、地域の人材を活用し、地域の教育力を組織化し、教育活動をさらに充実させる。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・校内平均正答率は5・6年生において基礎・活用ともに目標値を上回った。
- ・漢字の読み・書きの項目では6年生が目標値、区平均を上回っている。
- ・4年生においては国語辞典の使い方を正しく理解し、教科横断的に様々な場面で活用できているため、目標値を上回り、全国正答率も大きく上回った。

(2) 課題

- ・「知識・技能」の中でも特に言葉の領域では、4, 5学年において正答率が低いことから、漢字学習において工夫した授業の進め方をしたり、個別指導を工夫したりするなどして基礎・基本の定着を図る必要がある。
- ・「思考・判断・表現」の資質・能力を伸ばすために、課題に対して自分の考えをまとめる活動を増やしていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年変化）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	・校内平均正答率の「活用」が目標値を上回っている。「基礎」は0.6%低い。	・校内平均正答率の「基礎」「活用」ともに目標値を上回っている。	・校内平均正答率の「基礎」「活用」ともに、目標値を上回っている。	・校内平均正答率が、基礎、活用ともに目標値を上回った。
第5学年	・校内平均正答率の「基礎」「活用」ともに目標値を上回っている。	・校内平均正答率の「基礎」「活用」ともに目標値を上回っている。	・校内平均正答率の「基礎」「活用」ともに、目標値を上回っている。	・「基礎」の校内平均正答率は、目標値と区平均値を上回っている。
第6学年	・校内平均正答率の「基礎」「活用」ともに目標値を上回っている。	・校内平均正答率の「基礎」「活用」ともに目標値を上回っている。	・校内平均正答率が、基礎、活用ともに目標値を上回った。	・基礎、活用共には目標値を上回っているが、区平均正答率は下回っている。

(2) 分析（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	第4学年	・基礎的な学習の定着に課題があり、言語活動・漢字の内容を中心に正答率が下がる。 ・「活用」の内容に関しては校内平均正答率が、目標値を上回った。 ・主語と述語の関係についての理解が低い。	・校内平均正答率が、おおむね目標値を上回った。 ・「読むこと」の領域で、説明文の内容に関しては内容を十分に読み取ることができている。 ・「話し合い」の項目について、目的や役割については理解しているが、自分の考えをまとめる点について全国正答率から5%低い。	・漢字の問題と、最後の大問の無回答が20%前後いる。漢字が分からなくて問題を飛ばしている傾向にある。また、時間内に問題の最後まで到達していない児童がいることが分かった。
高学年	第5学年	・観点別正答率では、校内平均正答率が、目標値、全国平均正答率ともに上回っている。 ・漢字の書きの項目の正答率が目標値より2.4ポイント低い。	・話し合いの内容を聞き取る、物語の内容を読み取る面では、正答率が高い。 ・調べたことをもとに文章を書くこと苦手な傾向がある。	・校内平均正答率は、目標値と全国平均正答率を上回っているが、区平均正答率より下回っている。 ・指定された長さで文章を書くことに苦手意識が見られ、無回答もある。
	第6学年	・観点別正答率では、校内平均正答率が、目標値、全国平均正答率ともに上回っている。 ・漢字の読み・書きの項目ではいずれも目標値、区平均を上回っている。	・観点別正答率では、校内平均正答率が、目標値、全国平均正答率ともに上回っている。	・観点別正答率では、校内平均正答率が、目標値、全国平均正答率ともに上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第1学年	- 基本的な話すこと、聞くことの力を身に付けさせる。そのため、目標とする話し方・聞き方を提示し、朝学習や授業の時間に活用する。また、言葉の意味を動作化したり具体物を提示したりして説明する。 - 物語や説明文などの内容を正しく読み取る。そのために、繰り返し様々な読み方で音読をさせる。 - タブレットを活用したり、言葉集めやしりとりを行ったりすることを通して、語彙を増やし、学習の基本となるひらがな・がたかな・漢字の正しい書き順を身に付けさせる。	- 段階的に、ペア、グループ、全体での交流や発表を行うことで、安心して活動に取り組むことができるようにする。 - 自分の考えを言葉で表現できるようにする。そのために、必要に応じ話型を提示して自分の考えをまとめやすくする。 - 自分の考えをもって対話することで、互いに感想を伝え合い、考えを共感できるようにする。 - 対話をもとに話し合い活動の機会を設ける。	- 児童が必要感をもって活動に取り組むことができるように課題設定を行う。 - 読書が楽しいと感じられるように、図書の時間に読書学習司書による読み聞かせを行う。また学習単元に関係する内容の本を集め、並行読書を行い、読書の楽しさを実感できるようにする。 - 学習したことを他教科や生活に活かせるように各単元で他教科と横断的な指導ができるように指導計画を立てる。
	第2学年	- 語彙を増やし、活用することができるようにするために、読書の習慣を付けたり、教科書「ことばのたからばこ」を活用する。 - 正しい漢字の書き方を定着させるために、小テストや漢字ドリルを計画的に活用し、繰り返し取り組む。 - 文章表現をする上での基本を丁寧に指導する。 - 音読の習慣をつけ、様々な詩や文章表現に触れる機会を作る。	「順序を表す言葉」を使って、自分の体験したことや気持ちを分かりやすく表現する習慣を付ける。 - 友達の考えを聞き、自分の考えや質問、感想を伝えられるように話型を提示したり、良い手本を示したりする。 - 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫する習慣を付ける。 - 読む人に自分の思いや考えが明確に伝わるように、順序を考えて書いたり、簡単な構成を考えたりできるようにする。	- 相手意識・目的意識がもてるような単元のゴールを設定する。 - 読書に関心がもてるように、図書の時間に読み聞かせをしたり、学級での読書時間を作ったりし、感想を伝え合う時間を設ける。 - 自分の気持ちや思いを表現する活動を多く設定し、日常活動として取り入れる。 - 学習したことを他教科に生かせるように各単元で横断的な指導ができるように指導計画を立てる。
中学年	第3学年	- 新出漢字を学習する際には、書き方や漢字の音訓、活用例を確認し、繰り返し書くことで定着を図る。 - 主語述語、指示語、修飾語、漢字の音訓について反復練習を行い、理解を深める。 - 国語辞典で調べる活動やことわざ故事成語を調べる活動を通して、言葉への興味を高め、語彙を広げる。	- 物語の場面構成や重要な語句を明確に提示し、そこから読解できる内容を具体的に示して、想像して書く・説明する方法を理解できるようにする。 - はじめ・中・終わりの文章構成、説明の仕方の具体例を提示し、書き方を共有することで相手に伝わりやすい文章が書くことができるようにする。	- 学習課題や学習計画を児童と共に立てる。 - 図書の時間や読書週間を活用し、学年にふさわしい本や幅広い分野の本に親しむことができるようにする。 - 質問の仕方、話し合い方の話型を提示し、進行にそって話し合う能力を身に付けさせる。
中学年	第4学年	- 毎日の漢字学習、漢字小テストを実施し、繰り返し書くことで定着を図る。 - 漢字や主語・述語の理解など基礎・基本の定着に向けて、合計週に1時間以上取り組む。 - 自分の考えをまとめ、ノートに書いたり話したりする場面を増やす。	- 自分の考えをまとめるために、それまでの情報や経緯を理解する必要があるため、理解できているかを丁寧に確認しながら指導を進めていく。段落相互の関係に注意して文章を書くことができるよう指導する。 「はじめ・中・終わり」の文章構成を意識して書くことができるようにする。	- 話を聞く時に話す人の方を向くことを徹底し、聞く姿勢を身に付けさせる。 - 文を書くことへの意識を高めるために、定期的に文章を書く習慣を付ける。

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高学年	第5学年	・新出漢字を学ぶときに、書き順や熟語などを確認する。 ・漢字ノートに練習するときは、その漢字の熟語も確実に書き取りする。 ・特に説明的文章の読み方を丁寧に指導し、誤読なく文章を読めるようにする。	・自分の考えや筆者の考えをまとめるときに、文字数や文章の長さを指定して書かせるようにする。 ・比較的短い話を要約する学習を多く取り入れ、長期的に書く力を育む。 ・文章を書くときは、語尾や接続詞などに気を付けさせる。	・文章を書かせる機会を増やす。 ・単元の最後には、できるようになったことやもっと知りたいことなど、意欲的に学習に取り組めるように振り返りをさせる。 ・自分の意見を明確にして相手に伝える機会を増やす。
高学年	第6学年	・漢字の「読み」「書き」の練習、漢字小テストでの反復練習を引き続き行う。また、国語科での書く活動、他教科での学習においても漢字の「読み」「書き」を意識して指導を行い、児童がより実践的に漢字を活用できるようにする。	・物語を読む際には、叙述を基に登場人物の気持ちや考えを読み取ることができるように、下線を引いて文章を読むようにさせる。 ・考えを交流する時間に重点を置き、自分の言葉で説明する経験を積ませる。	・文章を書くことに対する苦手意識を取り除くため、文章を書く際の構文を示し、型に当てはめて書く練習を行う。 ・国語以外の教科においても、学習のまとめの時間を有効に活用し、書くことの経験を増やす。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・4年生では、資料から必要な情報を読み取る力が高まった。学習で用いる資料を意図的に選定したことで、児童が興味関心をもってじっくり資料と向き合うことができ、力を伸ばしたと考える。
- ・5年生では、調べて考えた事をノートやプリントにまとめたり文章表現したりすることで知識が定着した。資料から学習課題に沿った内容を読み取る活動を繰り返し行うことで、適切な資料を選び内容を判断することができるようになった。
- ・6年生においては、写真、図、グラフなどの資料から学習課題に沿った内容を読み取る活動を繰り返し行った。友達との考えの交流を行ったことで自分の考えをもつことができた。

(2) 課題

- ・引き続き各種の資料を的確に読み取る活動を重ね、知識の定着を図ると共に、児童が事実を比較・関連させて自分の考えをもてるよう、問題解決的な学習を充実させる。
- ・自分の学び方を振り返る機会をつくり、学習の仕方に見通しや自信をもてるように助言や支援を行う。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年変化）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	・校内正答率は、基礎問題は21問中5問、目標値を下回った。活用問題はほぼ目標値を上回った。	・校内正答率は、基礎、活用ともに目標値を下回った。	・校内正答率は、目標値を若干下回った。基礎は目標値を下回ったが、活用では上回った。
第5学年	・校内正答率の「基礎」は、目標値や区平均正答率、全国平均正答率を上回っている。「活用」は区平均、全国平均を下回った。	・校内正答率は、基礎問題17問中12問が目標値を下回った。	・校内平均正答率は、基礎、活用どちらにおいても、目標値を上回った。
第6学年	・校内平均正答率は、「基礎」「活用」とともに目標値を上回っている。	・校内平均正答率は、「基礎」「活用」とともに目標値を若干下回っている。	・校内平均正答率は、教科全体、基礎、活用共に目標値を若干下回っている。

(2) 分析（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	第4学年	・いくつかの問題で目標値を大幅に下回っている。 複数の資料から情報を取り出し総合する力が弱い。また、くらしのうつりかわりの理解が低かった。	・社会事象について、一つの資料から判断したり、考えを表現したりする力は伸びている。	・資料に着目しながら、社会的事象と自らの生活について関連付けて選択・判断することが苦手である。
高学年	第5学年	・適切な資料を選び取り判断する力が弱く、また自分たちの身の回りの問題と関連させたりすることも難しい。 ・八方位の理解が浅く、地図の読み取りが甘い。	・社会的事象の共通点や差異点を整理し、自分の考えについて根拠を明確に表現することが苦手である。 ・資料を基に意見を持ち、工夫について考えることが苦手である。	・社会的事象から、実体験や今後起こりうる事象の可能性を考え、親近感や切実感、必要観をもって調べ学習を行う経験が不十分である。 ・社会的事象について調べ、新たな課題や発展のための取り組みについて考える経験が不十分である。
	第6学年	・「日本の食料生産」の項目では目標値を5ポイント以上上回っている。 ・「日本の国土と人々のくらし」の項目において目標値を下回っている。	・目標値を3ポイント上回っている。 ・理解したことをもとに、情報を整理し、自分の考えを表現することが苦手である。	・知識を習得するにとどまり、そこから予想を立てたり、新たな課題意識をもったりすることが苦手である。

3 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学 年	第 3 学 年	- 資料や地図帳から情報を読み取る活動を繰り返し行い、地図の見方に慣れ、正確に読み取れるようにする。 - 白地図への書き込み作業や年表づくりに取り組み、知識の定着を図る。	- ＩＣＴ機器や思考ツールを活用して、児童が自分の考えを表現できるようにする。 - 問題解決的な学習過程を各単元で繰り返し行い、社会的事象の意味を捉えて表現する力を育てる。	- 単元の導入では、児童の興味関心が高まるような資料提示を行い、学習問題づくりにつなげる。 - 単元を通して目的意識をもって意欲的に学習できるような学習問題を児童と設定する。また児童とともに学習計画を立てて毎時間のゴールを明確にする。 - 毎時間の振り返りの時間を大切にすること。
	第 4 学 年	学習問題を意識して、社会的な見方・考え方を働かせ、グラフや表などの資料から必要な内容を読み取る活動を積み重ねていく。	- 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えさせ、その解決に向けて関わり方を選択・判断する力、表現する力を養う。 - ＩＣＴ機器を活用したり、プリントやノートにまとめたりすることを通して、自らの考えをまとめる活動を取り入れる。	単元を通して高い関心を持ち続けられるよう、魅力ある資料を用い、問題解決型の学習を展開していく。また、児童と学習計画を立て、毎時間の学習課題に沿って調べ、自分の考えを表現することができたか、自己評価する機会をつくる。
高 学 年	第 5 学 年	- 全体の傾向として資料をもとに判断する能力が低いいため、学習問題を意識して、社会的な見方・考え方を働かせ、グラフや表などの資料から必要な内容を読み取る活動を積み重ねていく。 - 地図帳を活用し、地名や都市名など、既習内容を復習する学習活動を取り入れ、４７都道府県の位置や八方位など基本的な知識の定着を図る。	- 資料から読み取った事実に基づいた、明確な根拠のある自らの考えや工夫を表現する機会を増やす。 - 一人一人が自分の考えをもち、友達との交流や話し合いによって、自らの考えを広げたり、深めたりすることができる学習展開を計画する。	- 社会的事象と自らの生活と関連付け、その目的や意義を考えたり、自分たちにできる取り組みについて考えたりする活動を取り入れる。 - 学習問題について予想をもち、学習計画に基づいて見通しをもって調べる学習活動について、自己評価していくことで、主体的な態度を育てる。
	第 6 学 年	- 知識の定着を図るため、既習事項との関連付けを意識した授業を展開する。 - ＩＣＴ機器や資料集を活用し、視覚的に理解できる機会を増やし、学習内容の定着を図る。	- 視点を明確にした資料の読み取りや、自分の考えを表現することができるような授業を展開する。 - 毎時間のポイントとなる事柄については共通理解を図り、それに対する自分の考えを学習のまとめの際に記述させる。	- 授業の導入では自分事として捉えられるような視点を与え、学習問題について予想し主体的に学習計画を立てる活動を取り入れる。 - 資料から読み取ったことをもとに友達と交流し、多面的・多角的な考え方に触れることができるような授業を展開する。 - 自分の学習の仕方を振り返る機会をつくる。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICTの普及により、自分の習熟度に応じて学習課題を選択することができ、個別最適な学びが実現している。
- ・ドリルパークの活用により、児童自身の学習への理解度の把握がしやすくなった。

(2) 課題

- ・表現の仕方が広がったことにより、既習事項を活用して自分の考えを、友達にわかるように表現する力を身に付けさせる工夫をする必要がある。
- ・学習効果測定の結果から、一部の児童で計算技能や基本的な図形認識、基礎的事項が不十分であり、発展的な学びへ足がかりを築く上で支障となっている。そのため、日常的な復習や補充問題の工夫、継続的な習熟度の確認が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年変化）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	・校内正答率は、基礎・活用ともに、目標値を下回った。	・校内正当率は、基礎・活用ともに目標値を上回った。	・校内正答率は、基礎・活用ともに目標値を上回ったが、前年度に比べて少し下がった。・校内正当率は、基礎・活用ともに目標値を上回った。
第5学年	・校内正答率は、基礎・活用ともに、目標値を上回った。	・校内正答率は、基礎・活用ともに、目標値を上回った。	・基礎については、目標値を下回った。しかし、活用は目標値を上回った。
第6学年	・校内正答率は、「基礎」「活用」ともに目標値を上回った。	・校内正答率は、基礎・活用ともに目標値を上回った。	・活用については、目標値を上回った。基礎は目標値を下回った。 ・校内正答率は、基礎・活用ともに目標値を上回った。

(2) 分析（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	第4学年	・かけ算の筆算に出てくる数の意味について理解が高い。 ・3けた＋4けた、3けた－3けたの誤答が見られた。 ・わり算の文章問題が苦手な傾向にある。	・口を使った文章問題を表した図の構造の理解が乏しい。 ・乗法の結合法則について理解している。	・校内平均正答率は、目標値を下回った。 ・かけ算とぼうグラフの読みとりの力は高い。
高学年	第5学年	・折れ線グラフの読みとりや長方形の面積の求め方、簡単な場合についての割合については理解をしている。 ・小数のしくみや分度器のめもりの読み方についての理解が弱い。 ・様々な形の性質や作図をすることが難しい。 ・折れ線グラフと表を読み取ることに難しさを感じている。	・仮分数、帯分数の大小の比較が分かっている。 ・身近なものの面積の見当をつけることができる。また、複合図形の面積の求め方を理解している。 ・折れ線グラフでは、1目盛りがいくつを表しているのかに注目して読み取る力が弱い。 ・1組の三角定規を組み合わせでできる角の大きさの求め方の説明が弱い。	・校内平均正答率が、目標値を上回った。 ・四則の混じった計算やひし形の作図が苦手である。 ・表に表したり、グラフを正しく読み取ったりすることに難しさを感じている児童が多くいる。様々なグラフや表を書いたり読んだりする経験をたくさん積む必要がある。

第6学年	- 目標値を4ポイント以上、上回っている。 - 奇数、偶数、公倍数、公約数など、整数の仲間分けについては目標値を下回っている。 - 小数と分数の計算については理解を深めている。 - 小数の計算や割合の求め方が苦手である。	- 目標値とは同等、全国平均より3ポイント上回っている。 - 文章題を読み取り、正しい式を選択したり、立式したりすることが苦手である。 - 資料を読み取ったり、読み取ったことを説明したりすることが苦手である。	- 習得した知識をもとに自信をもって学習に取り組むことができる児童が多い。 - 自分の考えを言語化して説明することが苦手な児童が多い。
------	---	--	--

3 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第1学年	- たし算やひき算の計算力を定着させるために、練習時間を十分に確保する。フラッシュカードを使って全体で繰り返し練習する。計算カード・タブレットドリルを使って個別に反復練習を行う。 - 計算の意味がよく理解できるようにブロックを使い、具体的な操作活動の時間を十分に取る。	- 対話や全体での話し合い等授業の中で自分の考えを説明する機会を設定する。 - 考えの根拠を明確にして、分かりやすく伝えられるように、図・具体物の操作を用いて説明する場面を設定する。	- 学習意欲をもたせるために、身近な日常生活の場面や、具体物などを問題の題材として取り上げる。 - 学習を振り返る時間をもつことで、学習内容を確認、理解を定着できるようにする。
	第2学年	- 計算カードやプリント、ドリル、タブレットのアプリなどを活用して、繰り返し練習して定着を図る。 - 時刻や時間、長さやかさなどの様々な単位を使用する学習については、国語や生活など他教科の学習や日常の中で、取り上げていく。 - 習熟度別のクラス分けを行うことで、児童の実態に合った個別最適な学習ができるようにする。	- 自分の考えを、根拠を明確にし、図・絵、言葉 ICT を利用して説明する機会を増やし、考えを深める。 - 文章題では演算決定のキーワードに着目させ、そこから立式できるよう声掛けをする。	dL マスや 30cm 物差しなど具体物を活用したり、ICT による操作活動を行ったりして単元の学習に興味関心がもてるようにする。
中学年	第3学年	- 四則計算を継続して反復練習をし、正確に早く解けるよう定着を図る。 - 毎時間の授業の初めに復習をし、既習事項を活用して学習に取り組めるようにする。	問題の場면을想起させて聞かれている内容をしっかり把握し、必要な情報を取り出して立式し、計算できるようにする。	見通しを持って学習に取り組ませるために、今日のめあてを意識させる。
	第4学年	- 整数や小数・分数の意味と表し方について理解し、数直線上の分数の関係を理解できるようにする。 - ある時刻と時刻の間の時間を正しく理解できるようにする。	- わり算の文章問題に取り組み、余りの処理をして正しい答えを求める力を育む。 - 意見交流の場をつくり、他者との教えあいから、自分の考えの幅を広げる活動を増やす。	- 学習の振り返りの時間に、学習課題を多面的に捉え検討させ、より良いものを求めようとする態度を養う。 - 授業のはじめに前時の復習をして次の学習に活用しようとしたりする態度を養う。

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高 学 年	第 5 学 年	• テストの直しを一人一人確認し、間違いを一緒に確認する時間を設ける。 • テスト直しの時間で復習プリントを行い、知識の定着を図る。 • ドリルパークを始め、タブレットを有効に活用し、既習事項の確かめをさせる。 • 億や兆、概数の表し方や作図などの基礎・基本的な問題に授業の始めなどに継続的に取り組む。 • 少人数習熟度別学習の利点を生かし、補習が必要な児童に対して単元末テストの直前等に補習を行う。	• 既習事項に立ち戻り、そこから自分の考えをもたせられるような授業展開を考える。 • 友達の考えを聞いて、自らの考えに立ち返る時間も確保する。 • オープンエンドの問題に取り組む際、自分の考えに根拠をもって説明できるように I C T を活用したり、適当な算数用語を示したりする。	• 導入を工夫し、前時の復習を行うことで、既習事項を活用して問題を解くことができる楽しさを実感させ、児童の興味関心を引くようにする。 • 学習したことを身の回りや、他教科の授業で生かすことができるようにする。 • 振り返りを適宜行い、自らの学習状況を把握し、次の時間に生かすことができるようにする。 • 振り返りの観点をしっかりと定着させることで、自らの学習状況にあった学習に取り組む手立てとする。 • 間違えた問題を繰り返し解いたり問題を様々な方法で解いたりして、粘り強く学習に取り組ませる。
	第 6 学 年	• テストの直しを一人一人確認し、間違いを一緒に確認する時間を設ける。 • テスト直しの時間で復習プリントを行い、知識の定着を図る。 • 用語や公式を確実に用いることができるように掲示したり、繰り返し確認したりする。 • 毎時間の導入で、既習事項の復習を行い、継続的に学習内容を活用できるような授業を展開する。	• 文章題への理解を深めるため、色分けをしたり、図で理解したりしながら「全体」「割合」「もとにする量」「比べられる量」などを把握できるようにする。 • 「わられる数」「わる数」「商」などの単位に着目し、問題の意図を理解できるような授業を展開する。 • 自分の考えを図や言葉、式で表し、言語化する活動を多く取り入れる	• 自分の考えを友達に説明したり、自分の考えに自信を付けたりできるような学習活動を設定する。 • 授業の導入では前時の復習を行い、既習事項を活用しながら、学習に取り組むことができるような授業を展開する。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 一部児童は、実験観察を通して、科学的事象の一般化だけでなく、次に疑問につながる考察ができるようになってきている。
- 実験、観察に意欲的に参加する児童が多い。理科室利用の約束事や実験中の安全管理も身に付いている。
- 実験動画やスライド資料の活用により、現象の予測や確認がしやすくなり、理科的概念への理解が深まった。

(2) 課題

- 基礎的な学力が身に付いていない。学習過程をユニバーサルデザイン化し、各学年で働かせるべき理科的な考え方と基礎的な知識の定着を図る。
- 科学的事象の因果関係や理科的な用語等の理解・定着を図ること。特に抽象的な内容において、ノート整理や言語化に課題を抱える児童もいるため、指導の個別最適化が必要である。
- 実験・観察で結果として認識したものと学習としてのつながり、学習内容と生活場面でのつながりが希薄であること。単元の導入や実験・観察やまとめの場面で、日常生活とのつながりを意識した授業づくりをする。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年変化）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	・校内平均正答率が、「基礎」「活用」とともに目標値と全国平均正答率に近かった。	・校内平均正答率が、「基礎」「活用」とともに目標値と区平均正答率より下回った。	
第5学年	・校内平均正答率が、「基礎」「活用」とともに目標値と区平均正答率より下回った。	・校内平均正答率が、基礎、活用とともに目標値と区平均正答率を下回った。	・校内平均正答率が、基礎、活用とともに目標値を下回った。
第6学年	・校内平均正答率が、「基礎」「活用」とともに目標値と全国平均正答率に近かった。	・校内平均正答率が、「基礎」「活用」とともに目標値と全国平均正答率を下回った。	・校内平均正答率が、基礎、活用とともに目標値と区平均正答率を下回った。

(2) 分析（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	第4学年	・物質・エネルギーに関する問題の理解が低い。 ・観察カードの記入の仕方、方位磁針の使い方の理解が低い。	・「磁石の性質」についての理解が低く、実験の方法からどのような問題を見出したかを推測することが難しい。	・実験方法からなぜこの結果になったのか記述する問題では、無回答が多い。
高学年	第5学年	・「電気のはたらき」では、乾電池のつなぎ方と電力の大きさの関係についての理解が低い。 ・「月と星」では、星の見え方や位置、明るさ、星座早見表の使い方について理解が低い。	・「物の体積と温度」について空気を温めたときの体積の変化について、根拠をもとに正しく説明することが難しい。 ・「電気のはたらき」では、モーターの回る向きを変える方法について考えることが難しい。	・理由を説明したり、推測したりする問題の無回答が目立つ。
	第6学年	・「天気の変化」についての理解が低い。	・「物のとけ方」では、水溶液を見分ける方法について考えることが難しい。	・実験方法の妥当性について、理由を明確にして説明することに苦手意識がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学 年	第 3 学 年	キーワードを使ってまとめる活動を取り入れ、用語の理解と定着を図る。	科学的な因果関係に着目して考えたり、言葉で説明したりする活動を充実させる。	- 生活場面との関連を意識した導入、まとめを意識する。 - 実験、観察で本物を見せる機会をできるだけ多く設ける。
	第 4 学 年	- 実験は日常生活と関連付けながら、実感を伴うようにする。 - 実験だけでは理解しにくい内容は、動画などの資料を提示する。	- 予想や結果から分かったこと、考察を個人で考える時間を充分にとる。 - 結果から分かったことや考察をペアやグループで共有し、考えを深める活動を行う。	- こどもたちにとって身近な事物・事象に関わる活動を多く取り入れる。 - 既習の学習と結び付けて、そこからどのように変化していくかを問うことで興味・関心をひくようにする。
高 学 年	第 5 学 年	- 実験や観察で、正しく記録する方法を指導する。 - できるだけ多くの本物に触れさせる授業を展開する。 - 用語を正しく指導する。	既習事項を生かして予想させる。また、単元のまとめに、分かったことのまとめを作成する。	- 生活と結びつくような体験的な学習活動を多く取り入れる。 - 分かったことや気になることなどを探求できる時間を設ける。
	第 6 学 年	- 具体物やICT機器を用いて、視覚的に理解できる授業を展開する。 - 用語を正しく理解し、覚え、使えるように、関連する学習で既習の内容について確認する。	- 実生活での経験を基に予想を立て、条件制御の考え方を使得、解決の方法を考えさせる。 - 得られた結果から考察するときには、予想に対して、問題に対する答えなどの視点を与え、適切に考えられるようにする。	- 導入時に日常生活と結び付け、科学的事象に興味をもたせるようにする。 - 得られた結果から考察する際、友だちと考えを交流し理解を深める場面を増やす。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

どの学年も口をしっかりと動かして発音する努力をしており、繰り返し練習することで正しい音を出している。また、高学年はフォニックス（英語の文字と音の関係性を学ぶ学習法）によって単語の読み方を予想できる児童も見受けられる。

アルファベットは書く機会を増やしたり、高学年はテストの名前を英語記入にしたりすることによって、正しい位置にアルファベットをかける児童が増えてきている。

(2) 課題

個々に発言をすることをためらう児童がまだまだ多い。また聞こえた言葉をカタカナに変換して理解しようとするため、単語では理解できるが、文の一部にその単語が存在すると聞き取れない児童がいる。

2 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学 年	第 3 学 年	習得させたい単語の絵カードに単語のスペルも記載することで、視覚から記憶しつつ、反復練習できるようにする。	- 習得した表現方法を用いて、会話する機会を増やす。 - 例文を用意し、一単語のみを代入する反復練習をする。	英語を話すことへの不安を取り除き、ミスを気にしない発言環境をつくる。
	第 4 学 年	- イントネーションを体得できるように、チャンツを通して記憶する。 - 発音・発話する量を多くする。	- イラストや写真を用いて文を理解する。 - 理解した文をベースに、表現したい文をつくりあげる。	自分のことをA L Tへ伝える機会を増やし、A L Tと話す楽しさ、伝える楽しさを感じられるようにする。
高学 年	第 5 学 年	- アルファベットの書き方を徹底させる。 - フォニックスを通して単語の読み方を予想できるようにする。 - 学習した内容が板書に残るようにすることで、活動の中でいつでも再確認できるようにする。	簡単な表現を使って自分の気持ちや考えを英語で書く機会を設ける。また、相手に伝えたい時の話し方、音量、スピードを考えて指導する。	- 児童の身近な環境や意向を取り入れ、英語で具体的に表現しようと思う学習設定をする。 - 児童はA L Tに確認してもらいながら、学んだ表現を積極的に発信できるようにする。
	第 6 学 年	- チャンツやワークシートを利用して、フォニックスの基本を理解していく。 - 繰り返し発声による単語の記憶、パターン文の定着を図る。 - 中学英語を意識して、文の構成を視覚化し、振り返りシートに残す。	- 習得した単語や文を個々に合わせた表現に活用する。 - 表現したい内容が相手に伝わるかどうか、A L Tに聞いてもらうことでアドバイスをもらう。	- グループごとの発表の場を設けたり、ゲームを取り入れたりする。 - A L Tとのスモールトークやスピーキングテストを通して発言のアドバイスをもらい、自分の夢や考えを発信できるようにする。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・限られた校内環境の中ではあるが、アサガオやミニトマトなどの植物を育て、植物を大切にする心情が育ち観察することができた。
- ・学校探検は2年生が1年生を連れていった。1年生は学校内の場所や人への興味関心を高め、校内の身近な施設について学ぶことができた。2年生は、上級生としての役割が増えたことに気づき、自分たちにできることは何かを考えて実践することができた。
- ・まち探検は、保護者の協力も得て池上駅近くの施設やお店でインタビューをして児童の自発的な調べ学習を進めることができた。
- ・大田区新教科「おおたの未来づくり科」に向けて素地を養う活動をピックアップし、高学年につながる指導計画を立てることができた。

(2) 課題

- ・「おおたの未来づくり科」に向けての指導計画を立てることはできたが、そのことを意識した授業展開を再考していくことが必要である。
- ・地域には多くの施設・お店があるが、日常生活においての関わりが薄いと感じた。引き続き自分の学校地域への愛着を育てていくことが必要である。
- ・自分の成長を振り返り、見守られ愛情をもって育てられたことに気付くこと、感謝する気持ちをもつこと、今後の目標や希望をもてるような授業展開を再考していく必要がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第1学年	・多くの気づきをもたせるために、体験活動やタブレット端末や図書を活用した調べ学習の機会を取り入れる。 ・生きものを育て、観察をする活動を通して、植物や虫などの身近な生きものが変化し成長していること、生命をもっていることやその大切さに気付かせるようにする。	・ペア・グループ・全体での交流を多く取り入れることで、友達の考えや気づきを知り、自分の考えを深めたり、自分の発表に生かしたりできるようにする。 ・見つけたもの・こと・人・植物の成長などについて、分かりやすく伝えるために、言葉や絵、文章などで表現する機会を増やす。	・よい気づきをしている児童を取り上げて価値付け、学んだことを他教科や生活に生かす。 ・よい気づきをしている児童を積極的に紹介して価値づける。 ・観察などの視点を具体的な言葉ではっきりと示し、気づきの質を高める。 ・活動の振り返りを記録し、自分自身の成長を実感することで意欲的に取り組む態度を養う。
	第2学年	・一人一鉢の自分で選んだ野菜の栽培活動を通して、成長の様子を自発的に観察できるようにする。 ・学校のまわりの池上警察署や池上図書館等の公共・まちの施設見学を行い、人との関りを大切にする姿勢を育てる。 ・タブレット端末や図書を活用した調べ学習の機会を多く取り入れ、自分で課題を解決する力を育てる。	・異学年との交流を多く設け、活動の楽しさを味わうとともに、自分の気づきを具体的に表現する活動を通して、相手に分かりやすく伝えられるように表現力を高める。 ・小グループでの話し合いや発表会など、友達と交流することを通して、相手の考えの良さところを見つけたり、自分の考えを深められたりするようにする。 ・相手に伝わりやすくするための、発表方法を工夫する。	・活動の過程をきめ細かく見取り、つぶやきや発言、思いを持つことを称賛して価値付け、活動カードに振り返りなどを記録し、自分自身の成長を実感し、意欲的に取り組む態度を養う中で、「おおたの未来づくり科」に向けた創造的な資質・能力の素地を育成する。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・表現と鑑賞の授業で、曲の特徴や良さを生かして、表現を工夫することに意欲をもつ児童が増えてきた。
- ・リコーダーの学習で、曲の練習に入る前に、音階の練習や、簡単な旋律を吹く練習を取り入れたことで、苦手意識を持つ児童が抵抗なく練習に取り組めるようになってきた。

(2) 課題

- ・曲の特徴や良さを感じ取り、表現に生かしているが、曲の良さを具体的な言葉で表現することが苦手な児童がいる。
- ・歌唱、器楽の授業で、拍の流れに乗れず、周りの音と上手く合わせられない児童がいる。

2 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第1学年	・リズム感覚を身に付ける。そのために、体や楽器を使ってリズム打ちをする活動をたくさん行い、リズム譜を読んでリズム打ちができるようにする。様々な楽器の音色の特徴を捉えて演奏できるように活動時間を十分に確保する。 ・身体を使って表現しながら、階名の模唱や暗唱に取り組む。音の高さや拍の速さを感じ取りながら歌ったり演奏したりできるようにする。	・曲想を考えて、曲想に合わせて歌い方やリズムを工夫して歌ったり演奏したりする。そのために拍のまとまりや拍子の違いを手拍子や楽器の演奏を通して感じ取らせる。また、歌詞やメロディーから曲のようすを想像して音学的感性を磨く。 ・音楽に合わせて体を動かしながら歌ったり、友達の歌唱や演奏を聴いたりする。	・音楽を表現したり、楽器に親しんで演奏したりする活動を多く設定し、活動の時間を十分に取る。 ・曲が表現している様子を想像したり、体を動かしながら鑑賞したりすることで、興味をもって進んで学習に取り組むようにする。
	第2学年	・体でリズムを感じ取り、拍の流れに乗って身体を使って表現をしたり、簡単なリズムフレーズを作ったりすることができるようにする。 ・音の高低を感じ取りながら、歌ったり演奏したりできるように、身体を使って表現をしたり、階名のハンドサインをしたりしながら階名唱に親しめるようにする。	・音楽を聴いたりボディーパーカッションを取り入れたりするなどして、拍の流れを感じ取り、音楽的な感性を磨く。 ・拍の流れや拍子の違いを感じ取るために、指揮をする活動を取り入れたり、友達とお手合わせをしたりして、拍子の特徴を感じとれるようにする。	・鑑賞や演奏の機会を増やし、表現を豊かにし、想像力を広げる。 ・楽器に親しんで演奏する機会を多く設け、練習の時間を十分に確保して、興味を持って進んで学習に取り組む姿勢を育てる。 ・校内で発表する機会を設け、目標を設定させることで活動意欲の向上を図る。
中学年		・基礎的な奏法に時間をかけて指導し、視覚支援や ICT 等を活用した指導をスモールステップで設定し、基本の定着を図る。 ・旋律の特徴を理解し、どのようにしたら特徴を生かした音色になるのかを考え、取り組ませる。	・授業内の発表の中で友達の表現の工夫や良さに気付かせる。 ・曲の特徴や良さを適切な言葉で表せるように具体的な言葉を提示する。	・めあてや、学習の流れを明確にし、児童が見通しをもって学習を進めていけるようにする。 ・楽器に親しんで演奏する活動を多く設定し、練習の時間を十分に取る。 ・校内で発表する機会を設け、目標を設定させることで活動意欲の向上を図る。
高学年		・基礎的な奏法に時間をかけて指導し、視覚支援や ICT 等を活用した指導をスモールステップで設定し、基本の定着を図る。 ・音の重なりや響きを中心に、その特徴と音楽の要素を結びつけられるようにする。	・授業内の発表の中で友達の工夫や表現のよさに気付かせる。 ・知覚したことと感受したこととの関わりを考えさせる。 ・音楽の特徴や感じを表すことばの中から自分で要素を選択した上で、演奏の工夫を考えさせるようにする。	・学習の流れを明確にし、見通しをもって学習できるようにする。 ・楽器に親しんで演奏する活動を多く設定し、練習の時間を十分に取る。 ・校内で発表する機会を設け、目標を設定させることで活動意欲の向上を図る。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・様々な材料や用具を経験する機会を増やしたことで、それまでの学習を生かして新しい表現を生み出そうという姿勢が見られた。
- ・ICTを活用して、自分の作品について記録を残したり、まとめたりすることで、お互いの頑張りを振り返ることができ、表現活動に進んで取り組むきっかけにつながった。

(2) 課題

- ・題材によって、児童により得意、不得意があるので、活動時の意欲に差が出てしまうことがある。苦手な題材に対しても主体的に臨むことができる場を増やしたい。
- ・高学年に上がるにつれ、自分の表現や作品に自信を持つことが難しく、表現への意欲の低下や発想を広げることが苦手と感じている児童が見られる。

2 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第1学年	・材料や道具に触れる時間を十分に確保することで、材料や道具の特徴をよく知り、扱い方や使い方に慣れるようにする。 ・児童が手や体全体の感覚を使って対象や事象を捉えられるような題材を設定する。	・鑑賞の際には、事前に視点を提示することで、作品のよさや工夫を共有しやすくする。 ・身近な生活経験を想起できるような題材を設定したり、友達の作品の鑑賞をしたりすることで、自分の見方や感じ方を広げられるようにする。	・よりよい作品に仕上げようとする態度を育てるために、ICT等を活用して作品のよさや工夫を共有する。 ・教師が積極的に助言や価値付けを行うことで、児童同士が互いによさに気付いたり、を認め合ったりできるようにする。
	第2学年	・身近な材料や用具に十分に慣れさせ正しい使い方を知り、表現するときに生かせるように場面を設定する。	・友達の作品や表現活動を見るときに、視点をいくつか提示したりICT等を活用したりして作品のよさや工夫を共有しやすくする。	・今までの経験を活かし、活動に応じて材料や用具の使い方を考えさせ、活動全体を工夫できるようにする。 ・材料をいくつか用意をして、形や色を比べたり選んだりすることで楽しんで作品を作ろうとする態度を養う。
中学年		・様々な材料や用具を経験することのできる題材、場の設定をする。また、材料や用具の正しい使い方について安全に用具が使えるようしっかりと指導し、児童が表したいことに合わせて工夫して活用できるようにしていく。	・導入時の資料掲示や対話、机間指導における発想のよさを認める声かけをすると共に、いくつかの参考資料をみせるなど、児童が発想を自由に広げやすい場を提供する。 ・ICTの活用や機の配置などを工夫し、互いの作品を鑑賞しあえる機会を増やし、児童が自分の見方や感じ方を広げることができるように促す。	・導入時に教師と児童、児童同士の対話、写真などの資料の提示を行い、進んで活動に取り組もうとする態度を育む。 ・机間指導において、児童の発想や表現のよさを認める声かけを行い、作品のよさや工夫を共有する。
高学年		・様々な材料を試すことができる場の設定をする。また、これまで学んだ、材料や用具の正しい使い方について復習すると共に新しい題材についても児童が表したいことに合わせて工夫して活用できるように確実な指導を行う。	・導入時の資料掲示や対話、机間指導における発想のよさを認める声かけをすると共に、いくつかの参考資料をみせるなど児童が発想を自由に広げやすい場を提供する。 ・ICTの活用や機の配置などを工夫し、互いの作品などを自然に鑑賞しあえる機会を増やし、児童が自分の見方や感じ方を深めると共に他の児童の作品の良さを理解できるようにする。	・教師と児童、児童同士の対話、写真などの資料によって、または必要に応じてICTを使い授業の導入を行う、主体的に活動に取り組もうとする態度を育む。 ・机間指導において、児童の発想や表現のよさを認める声かけをする。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 調理実習（規定の調理とおやつ作り）やソーイングの実習（5年生ランチョンマット、6年生リバーシブルエコバッグ）、6年生は卒業前のぞうきん製作、「お金の力」のカードゲームを用いた金融経済教育プログラムなど、実習を多く取り入れることで、児童の意欲・関心を高めることができた。
- ソーイングの実習では、作業が進まない・難しい児童は教卓で個別指導を受けられるようにすることで、器用さによる進捗や意欲の差を解消し、安心して課題に取り組み、「できるようになった」という達成感を得る児童がみられた。
- ICT（オクリンクプラスのシート）を用いた課題提出と発表を取り入れ、ICTの資料作成のスキルアップとともに、児童の様々な考えを共有した。
- 細かな手作業や詳しい情報はインターネットの動画を活用し、理解を促すことができた。

(2) 課題

- ソーイングの実習では、児童によって進捗状況に差ができてしまい、授業中に課題が終わらなかった児童は補習を行った。また、教卓での個別指導を受けたがらない（前に行くことができない）児童が少人数みられた。

2 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高学年	- 実習では、調理やソーイングの作業手順を児童と共に確認し、ホワイトボードに示し、児童が安全に安心して実習に取り組めるようにする。 - ソーイングの実習では、当日の課題を明確にし、丁寧にひとつひとつの技術を重ねていく。 - 苦手なことができるようになったという達成感を持てるよう、必要に応じた個別指導を組み合わせる。	- 実習後には振り返りの時間を設定し、児童の率直な感想や反省を引き出す。 - 学習ノートに加え、オクリンクプラスシートの課題を用いて、児童の学びを個別に確認する。 - ソーイング実習では、基本的な技術に加えて、創意工夫が可能な題材を用いる。	- 授業のはじめに授業の流れ、今後の予定を伝え、児童が計画をもって安心して課題に取り組めるよう促す。 - 課題が苦手な場合には教卓での個別指導がいつでも受けられることを伝え、必要と思われる児童に声掛けを行う。 - 家庭科での学びを家庭で生かすよう常に声掛けを行い、家族の役に立てる気持ち、主体的な取り組みにつなげる。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・体育の用具の更新や整備を進めたことにより、児童一人ひとりが十分に活動できる環境が整い、より意欲的に運動に取り組む姿が見られた。
- ・良い動きをしている児童や運動の工夫・考えを紹介する時間（シェアリング）を毎時間取ったり、ICTを活用したりすることによって、互いに動きや技のポイントを見合い、学びの質や運動技能の向上につながった。
- ・休み時間に屋上遊びの割り当てをしたことにより、児童が日常的に体を動かす機会が増えた。

(2) 課題

- ・昨年度に引き続き、スポーツテストの結果で、持久力、投力が全国平均を下回っている。体育朝会等でボールを投げる機会を増やしたり、持久走大会に向けて全校で朝の時間や休み時間に取り組む時間を増やしたりすることが必要である。
- ・スポーツテストの結果で、「体力・運動能力の向上について、自分なりの目標を立てていない」と答えた児童が、昨年度より増えた。目標設定の意義を児童自身が実感できるよう、技能の発達段階や基準を示していく。
- ・体育の学習時において、服装や身だしなみが整っていない児童が一定数おり、安全面に課題が見られる。

2 授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第1学年	・誰もが楽しみながら基本的な動きを身に付けさせるために、わかりやすいルールを示し、複数の場を設定することで、様々な運動を繰り返し経験をさせる。	・児童同士での教え合いや協力する時間を授業の中で取り入れて、良い動きを共有し、動きの幅を広げる。 ・自己に合った遊びの選択ができるように、遊びの場を複数用意する。 ・集団で仲良く運動ができるように肯定的な言葉がけを行う。	・全員が楽しみ、達成感を味わうために、誰もが楽しめるルールを工夫したり、ゲーム性を持たせたり、遊びの要素を取り入れる。 ・きまりを守って誰とでも仲良く活動する良さを味わわせ、意欲的に運動遊びに取り組む姿勢を育てる。
	第2学年	・誰もが楽しめるようにルールや場の設定を工夫し、一人一人が達成感を味わえるようにする。 ・楽しみながら様々な運動経験をさせ、基本的な動きを身に付けるようにする。	・児童の良い動きや工夫・考えを共有する時間にできる範囲でICTを活用しながら取り入れ、良い動きを広めていく。 ・自己に適した運動の場を選ぶことができるに、遊びの場を複数用意する。 ・自分の動きを振り返ったり、友達の動きと比較して考えたりできるように学習カードを作成する。	・運動遊びにゲーム性を持たせ、意欲的にいろいろな動きが体験できるようにする。 ・誰とでも仲良く活動する楽しさを味わわせ、すすんで運動遊びに取り組む姿勢を育てる。 ・協力して道具の準備をする時間を設けることで、安全に気を付けて道具の準備を行う姿勢を育てる。
中学年	第3学年	・基本的な動きや運動の型を正しく理解できるよう、動きのポイントを学習カードに示す。	・動きを見合う際、思考の手がかりになる、動きのポイントを掲示する。 ・タブレットで自分の動画を撮り、確認することで課題を解決できるようにする。	・きまりを意識し、守ることの意味を理解して取り組むことができるように、自分たちできまりを考える時間を取る。 ・見通しをもって学習に取り組むことができるように、学習の流れを把握させる。

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	第4学年	- 個人のめあてを設定することで、高めたい技能を意識させる。 - 簡単な体の動かし方を準備体操後に取り入れる等をして、正しい体の使い方を身に付けるようにする。	- 動きのポイントが分かり、さらに楽しく運動ができるルール等を考えさせる。 - 互いに見合ったりアドバイスしたりする時間を設けることで、運動のポイントを意識できるようにする。	- ペアやトリオ学習を取り入れ、自分だけでなく、他者の取り組みについても考えられるようにする。 - 最後まで粘り強く取り組む中で、達成感を得たり、課題の解決に取り組む意味や自己肯定感を高められるような言葉かけをする。 - ワークシートなどを準備し、学習の見通しがもてるようにする。
高学年	第5学年	- 児童が自らの動きを友達と見合ったりICTを活用したりすることで俯瞰して見ることを通して、高めたい技能を主体的に高めることができるようにする。そのために、場の設定や補助の方法、資料を配布したり、ICT機器を活用したりする。 - ワークシートを活用し、振り返りの時間を十分に確保するなど、自己の技を見直す場面を設定し、技のクオリティを高めていく。	- 友達と交流することで、自らの考えを伝えたり、アドバイスをもらったりと協働して学習に取り組むように同じめあてや課題をもった児童など意図的に、グルーピングをして交流の時間を十分に設定する。そのためにも、掲示物や資料を用意したり、ICT機器を効果的に活用したりしていく。 - 一人一人の習熟度にあった場の設定をしていき、工夫しながら取り組めるようにする。	- 振り返りの時間を十分に取ることで、次時のめあてを充実させ、自らの学習を俯瞰して見るができるようにする。 - ルールやきまりを明確に示し、安心して学習に取り組むことができるようにする。ルールを工夫することで、運動が苦手な児童も積極的に取り組むようにする。 - グループやペアで取り組める場を多く設定し、仲間同士でアドバイスを出し合うなど、話し合いながら学習に取り組めるようにする。
	第6学年	1単位時間でのめあてを明確に示し、知識・技能の習得に向き合える学習展開を行う。 - 課題解決の時間を十分に確保し、課題別、スモールステップで知識・技能が高められるような場を設定する。 - 学習カードを活用し、自身の学びや課題を振り返るとともに、技カードを活用することで、ポイントをいつでも見ることができるようにする。	- ワークシートやICT機器を活用し、自分の課題と向き合ったり、友達の良いところを見付けたりすることができるようにする。 - 技のポイントが示された資料を用意し、児童が自分自身で確認できるようにする。 - チームや同一課題をもつグループを設定し、課題解決に取り組むことができるような授業を展開する。また、それぞれの課題にあった場を提示・設定する。	- 見通しをもって学習に取り組むことができるように、授業のはじめに学習の流れを伝える。 - ルールを自分たちで工夫したりきまりを明確に提示したりすることで体育が苦手な児童も安心して学習に取り組むことができるようにする。 - 映像資料を用い、競技の特性を理解する場面を設け、主体的に学習に取り組むことができるようにする。